巻頭言

事始めの夢と苦難

代表取締役

加藤伸一

今年はトヨタ自動車の創業者である，豊田喜一郎氏の没後50周年にあたる。

氏は，日本人の頭と腕で日本に自動車工業を創りたいという大きな夢を抱いた。しかし，当時ハイテクでリスキーな事業を始めるには想像を絶する苦難の道であった。そして，氏が起業家として追い求めた国産乗用車生産という夢が，ようやく具体化し始めた時に世を去ったのである。

この50年，自動車産業は多くの人々の血の滲む努力のお陰で，飛躍的な発展を遂げた。喜一郎氏がご存命ならば，何と思われるであろうか。氏に対して改めて心からの敬意と深い感謝の念を抱く次第である。

今回の特集は直噴ガソリンエンジン技術である。昔から，エンジン技術屋にとってシリンダー内に直接燃料を噴射するシステムは，まさに夢の技術であった。現在のD-4と言われている直噴ガソリンエンジンの開発は約15年程前に始まったと私は記憶している。私は直接携わってはいなかったが，当時の技術者の苦労は大変なものであった。何年かの間は，外からは成果が見えなかったが，忍耐強く進めていくうちにようやく光明を発見した。このあたりの過程が非常に重要で，成功しそうなプロジェクトは周りの理解が得やすく，大勢の人が集まってくる。

しかし，まだ先の分からない，見えていないプロジェクトには誰も見向きもしないのが通常である。また失敗することも当然有り得る。この時，上司あるいはトップマネージャの理解，旗振りと激励が重要である。

幸い直噴ガソリンエンジンは1996年に生産に移され，最近では15万台／年産のペースであることは誠に喜ばしい。今後，色々な課題に対して一層の改良が望まれる。研究開発には時間がかかり，研究者は何代も変わり，技術が伝承され，そして完成されていくというケースが多い。

その事始めに当たり，夢を持ち続け忍耐強く，苦難に挑戦した人々の貢献について敬意と感謝を忘れてはならない。豊田中央研究所の任務は，常に時代に先んじた新しいテーマに，挑戦していくことである。豊田喜一郎氏没後50周年にあたり，夢と情熱を持ち続け，あらゆる苦難を乗り越え，今日の礎を築いた氏の偉業をよく学び，今後の糧としたい。